

ふ方まうに向ふむかものなり。

子供のおもちや(その一)

ひ さ 子

私わたくしがこゝにおもちやと申まうしますのは普通一般ふつういっぱんに所謂しゆゑおもちやと稱しょうして居ゐりますもの、たとへば、人形にんぎやうとか、デンく太鼓たいことか、獨樂どくがくとか申まうす物ものばかりでなく、主に幼稚園ちゆうえんでつかつて居ゐる恩物おんぶつとか、又草またぐさとか、小石こいしとか、土つちとかの自然物じぜんぶつなども含あめて居ゐりますので、つまり人間にんげんでもなく犬いぬとか猫ねことかいふ動物どうぶつでもなくて、そうして子供こどもの友達ともだちになる物もの子供こどもの玩あそぶ物を廣ひろくさして申まうします。おもちやと子供こどもは殆ど一日いちじつも離はなれられぬ程親密ほどしんみつなものでございませぬ。子供こどもはおもちやなしには暮くらして行ゆかれませぬ。尤もつとも生うまれたての兒こは全く夢現ゆめげんの

境まかひのやうでれもちやも何なにもいりませぬが、段々だんぜん心しん身しんが發達はつたつして參まりますと、何なんでも握にぎりたがる、ねぶりたがる、オシヤブリ位くらゐは喜んで持もつといふ風ふうになり、いよゝおもちやが必要ひつようになつて參まります。さて口くちも相應さうおうに廻まわつて來きて、あれがほしい、之これがほしいの慾よくが出る頃ころになりますと、益ますますを盛さかんにおもちやが用もちひられます。それからなほ大おほきくになりますと、叩たたかれても破やぶられても撫なでられても、泣なきも笑わらひもせぬ、心こころといふものを有あつたぬおもちやよりは、心こころを有あつて居ゐる遊あそび友達ともだちがほしくなりませぬ。そこで犬いぬでも猫ねこでもサツサと友達ともだち扱あつかひにして遊あそびませぬ。以上いじやうは皆みな子供こども自身みづかと同等どうとうの物ものではございませぬが、自然じぜんの要求ようきうとして、人間にんげんであつて自分じぶんと對等たいとうの遊あそび相手あいてになるもの、即すなはち子供こどもの友達ともだちといふものを求める様ようになつて參まります。此この友達ともだちと

遊ぶ時に當りましても、只人だけを相手にする事もございませぬけれども、多くの場合何か物を一緒につかつて遊びます。即ち或物を他と共に遊ぶといふ事が多くあるのでございまして、心身共に故障なく發達しつゝある子供の一日の生活の大部分は之でございませぬ。

此様に子供とおもちやは離れられぬ關係を有て居りますから、どうか良い子供と遊んで良い感化を受ける様と願ふがごとく、おもちやといふものに對しても此注意を拂ふといふ事は至當の事でございませぬ。今私は少し細かく分類をして考へて見たと思ひませぬ。

(一) 自然物

四角に申せば動植物でございませぬが、動物は遊ぶのではありませんが友とすべきもの(子供の友として

の動物に付ては後日別に書いて見たいと存して居ります)でございませぬから、まづ子供に玩ばるゝ自然物と申せば植物 礦物でございませぬ。

木も草も何もない土地に子供を遊ばせませぬと、何をいたしますか。大人ならばさても殺風景な處と思ふでございませぬが、子供は忽ちかゝる處にも我友を發見して、小石を拾ひ土をかきよせて遊ぶでございませぬ。海濱に子供を放らませぬと、どんな事をいたしますか。貝を集め砂山を築き海水をひく工夫などを必ずいたします。子供を連れて野原や山道を歩ませませぬと、どうでございませぬ。アラ花が咲イテマスとか、コンナカワイー草!とか言つては片端から摘みとつたり、又は何といふわけもなく只小さい手にあまるまで摘みためたりするのが普通でございませぬ。こういう場合に道

草をせぬ子供は殆どございますまい。銀杏や楓の葉がヒラ／＼と飛び、櫻の花藤の花が散り敷いて居る頃には子供はどういたしますか。必ず熱心に拾ひためて、或は其美を樂み、或は其多きを喜び、或は飯事の材料とするでございませう。

誠に、小石、土、砂、水、草木の葉、花、種などは、何れも子供の喜びで遊ぶものでございまして、地球上には、絶えず自然のおもちやが子供に與へられて居るのでございます。木の葉が皿にも舟にもなり、草の葉が多く野菜として用ひられ、花は美はしと樂まる、外に御馳走として調理され、木切が庖丁となり、板切、瓦、石などが俎や盆や膳になり、多くもあらぬ水も或は池、川、湖、海など、稱せられ、或は酢にも醬油にもなり、砂は築かれて山をも谷をも川をも池をも作り出し、煉瓦

は碎かれて砂糖となり、藤蔓は編まれて百足や草履と化するなどの事は、子供を見て居る大人の目に絶えず觸る、事柄でございませう。

他の人も言ひ私もそう考へて居る事でございます。が、どうも人造物たとへば獨樂とか書とかいふ玩具はあまり同じ物を續けて永く持つうちには倦きて來るといふ事がございますが、草を摘むとか、土で砂糖屋をするとかいふ様な事は、決して倦きません。自然物の方が永く子供の注意興味をひく様に思はれます。これは自然を樂み自然物を愛するといふ事は人間の本能であるといふ處から來るのでございませうか、又自然物には材料の變化が多く且つ子供の力に由りてどうにでもする事のできる爲に自發活動に満足と與へるといふ事もあると考へます、誠に自然物は結構な良いおもちゃで

さいます。そうして子供が無心に之を玩んで居る間には、之と親み愛する情も養はれ、其理科的性質、作用も觀察され、發見され、研究され、之を様々に用ふる事に由て工夫想像の力も練られ感官も習練されます。葉一枚を手にしても大人は之に由て子供に、色、形、作用などを語る事ができるごとく、子供の時代の理科的知識位は其常に玩んで居る自然物に由て随分導きつゝ語る事ができると考へます。自然物に由て子供の好奇心求知心を利用して物事を研究するといふ心の萌芽を培養して行くといふ事に大切な事でございます。自然物を玩ぶといふ事は此通り有益な且つ必要な事でございますから「マタ衣服ヤ手ニ土ヲツケテ」とか「コンナ枯葉ヲ澤山持ツテ來テウルサイ」とか、一口にけなす大人がもしありましたならば、

それは實に誤つて居ると思ひます。子供が自然物を玩ぶ之に由て遊ぶといふ中には、様々の尊い良意味が含まれて居るのでございますから、大人は其つもりで子供に同情してやつて適當な注意を拂ひ指導を與へましたならば、子供にとりて幸福な事でございます。

乳母を撰ぶ法

久永童山

本編は、親友故山本與一郎氏が編著せられた「家庭衛生論」中の一編である、我のみ讀みて、獨り泣くに忍び難いから、之を公にして、「婦人ど子供」の愛讀諸賢に示さう。

乳母を撰び方は、随分やかましさものなるが、規則通り一點の缺け目も無き乳母は、中々得難き